



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2009.3

No. 299

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



講演『フィールドガイド日本の野鳥』(後編)

(イラストレーター谷口高司氏の話の続き)

この『フィールドガイド日本の野鳥』、いわば高野図鑑が最初にできたのは1982年。2007年の段階で25年も経ってますから、いくら途中で増補版を作ったからといっても、内容的にずいぶん古くなっています。

一時期、野鳥の会で「全く新しい図鑑を作ろうよ、その時点で分かっている知見も全部入れて作りましょう」という計画はありましたが実現できませんでした。

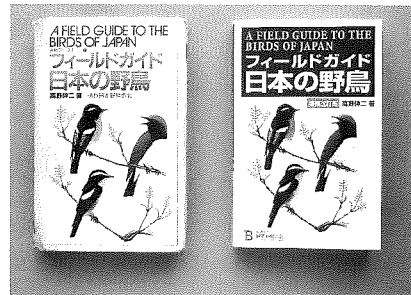
その後も高野図鑑は存続していたんですが、会員の方々の声もあって、いよいよ何とか手を入れなければならない。で、2006年の秋、野鳥の会本部のAさんが私の所へ直々にいらして、「高野さんの図鑑としての名前と功績は残したいけれども古い誤った情報の部分は直していきたいんです」「それについては、絵に筆を入れなければいけないんです」「それ、やってくれますか」って言われたんですね。

私、なんと返事して良いか分からなかったんです。でも、会員の皆様のご要望もあるし、このまま高野図鑑が古い形で続くのも良くないと思いました。

で私は「引き受けるけれども……」と言って条件を出しました。「高野さんの未亡人つや子さんが『うん』と言ってくださったら」と。奥様のことはよく存じ上げていましたし、学生時代からかわいがっていたいた方でした。ひそかに高野さんのお墓にお参りして「いいんでしょうか」と相談もして来ました。

でも、やっぱりね、逡巡がありました。なにせ高野さんの図版に直接筆を入れるということは、文化財に傷を付けるような気がしました。文化財に落書きをするような、それとは違いますが、それに近い感じを持つ方もいらっしゃるのではないかと、そういった逡巡がありました。

しかし、明らかにこのへんはちがうなあ、という箇所があるんですよ。そのままにし



1982.11.1 初版 2007.10.15 増補改訂版

ておくというのは、逆に高野さんを守ることにならないんじゃないか。また叶内拓哉さんからは「奥様から聞いたんだけど、高野さん、生前あの図鑑、直したいところが200箇所ぐらいあるっておっしゃってたんだぜ」と聞いていました。そこで、高野さんにかわって私が筆を入れて直そう、と自分を納得させて引き受けました。

2006年の暮れから描き始めまして、増補の部分は自分の絵ですから、まあ、比較的自分の好きなように描くことができました。

いよいよ、原画そのものに手を入れる段階が来ました、2007年の4月27日。実はそのころ、引っ越しをしたんです。大学を卒業しずっと理髪店をやりながら図鑑の仕事もしていました。還暦を機会に店じまいをして、図鑑の仕事がしやすいようなマンションに引っ越したんです。そこに野鳥の会本部のAさんとKさんが原画を大事そうに持って来てくれました。そして、まだ荷物も入っていない状態で、ガラんと床が全部見えている状態のところ、原画を広げてもらって、はじから筆を入れていきました。

最初のページは、アビ科ですね。最初に筆を入れたのは、シロエリオオハムとオオハムの浮いている姿の後半の白いところが出る出ない、あの部分ですよ。

ホワイトを原画に入れる時にねえ、やっぱりねえ、筆先が止まりましたよねえ。やっちゃったらどこまでいっちゃうか分からないな、

そんな感じでしたね。でも、もう、覚悟を決めて、ホワイトをばっと入れちゃいました…。まあ、それからは平気ですよ、どんどんどんどん…。

その日は、最終バスの直前までかかって3分の2ぐらい修正しました。残りを野鳥の会に持って帰っていただいて、今度は5月2日と12日、事務所に2回通って200箇所全部の修正を終わりました。

先ほど申しましたが、私は高野さんと同じ絵の具、同じ紙をずっと使い続けていました。それですから、同じ絵の具を使って塗り重ねができました、それは本当に幸いでした。

ああ、でもねえ、何て言うかなあ、すごく疲れた仕事でした。なにしろ高野さんの絵の雰囲気や壊さずに、それでいて誤りもないようにということだったからです。最後のカラスのところまでいったときは全身の力がふつと抜けたような感じになりました。

さて、2007年の10月15日。この日は高野さんのご命日です。実はね、高野さんのご命日は私たち夫婦の結婚記念日なんです。高野さんがお元気だった頃に、高野さんのお宅に結婚の報告に伺いました。「ついては仲人をお願いします」「はいよお、よかったなあ」ということになってました。その後、体を悪くされまして、夏頃に「ちょっと、できそうもないので、悪いけど」ということで、仲人は急遽、別の方をお願いしました。

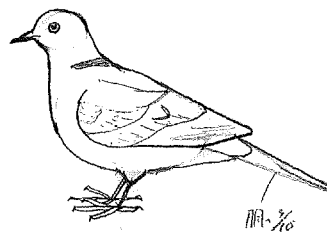
その10月15日、私どもの結婚式が終わって、披露宴が終わった時間に息を引き取られました。最後まで見届けてくださったんだと思いました。まさにご命日に完成しました。

このようにして、自分の図鑑ではないんですけどもひとつの図鑑が完成して、みなさんが手にとって楽しんでいただけるのは本当にありがたいことです。これからもずっと図鑑の仕事に携わっていきたくて考えています。

実は、先ほど野鳥の会で新しい図鑑を作るという話が途中で頓挫したと申しましたが、その話しは続いてまして、今度はバードライフアジアの肝いりで今描いています。どんな図鑑ができるか楽しみにしていただきたいなと思います。

増補改訂版へのQ&A

- Q** 最も難しい修正はどの鳥だったですか。
A 薄いところを濃くするのは簡単です。濃いのを薄くするのは大変です。その意味でウグイス。一回白く塗りつぶして塗り直します。
- Q** 修正しきれなかったところはありますか。
A 本部のAさんが言った通りに修正しました。ここは直したいな、と思っても手を付けていません。
- Q** 修正データの収集方法は？
A 野鳥の会が集めました。Aさんの目の前で指示通りに修正していきました。その方が確実ですから。
- Q** 実際とは違っている箇所はありますか。
A 原画の状態と印刷した状態とでは雰囲気が違っているときがあります。それはある程度仕方がないことだと考えています。
- Q** 絵の才能はいつ頃から出てきましたか。
A 子どもの頃は大変病弱で、長期休むこともありました。1箇所も休むと友だちがいなくなります。一人遊びをします。それが図鑑の描き写しだったんですね。虫は捕まえた方が早いから、鳥の描き写しを小学校時代ずいぶんやってましたね。それから体が丈夫になるようにと親が剣道に通わせましたんですけど、その先生が絵も教えていたんですね。それで絵も習いました。また父親が質のいい本を与えてくれたことも大きいと思います。



講演後半で谷口さんの「タマゴ式鳥絵」解説に従い描いたある受講生のシラコバトです。

谷口さんは荻窪で野鳥イラスト教室を開いています。詳しくは [谷口高司鳥絵工房](#) をクリック。

さぎ山記念公園探鳥会

陶山和良(さいたま市)

3年ぶりに新年のさぎ山記念公園探鳥会に参加した。

柿の実を啄んでいたツグミたちが私たちに気づき、一斉に三々五々、空へ舞い上がる姿、見沼自然公園の池には、目の前を悠々と泳いでいる数種のカモの様子が泓には新鮮だった。

「双眼鏡を使わず、肉眼で観察することも時には大切なことですよ」とKリーダーの説明。大きさや、ふっくらとした感触、色合い等を感じ取ることができる、納得した。

どこからか「アトリだ!」。高い梢に2羽いるのを確認した。「あれは夫婦ですか」「まだペアリングを組む季節じゃないので番いとは決められないでしょう」「ハア? ツガイ? ペアリング? 初めて専門用語を知りました」とほほえましい会話も耳に入って来た。鳥合わせでは「アトリは、さぎ山記念公園探鳥会では初出現で、67種目です」とチーフリーダーからの説明があった。

恒例の野外新年会では、アルコールの効いたシロガシラアカショウビン達が美声を発する中、Kさんの5歳になる孫娘さんの「ポニョ」の歌は、未来の頼もしいバーダーの夢を抱かせ、私も地元の小学校の部活で10年間、バードウォッチングのゲストティーチャーを仰せつかっていることの喜びを感じた。

探鳥会の魅力は、「自ら自然を楽しむことが一番だが、バーダー達のコミュニケーションを図ることや、知り得た知識等をそれぞれの地域へ浸透させることも大切なことではないか」とN元支部長の話しもあった。実際、N



ツグミ(田中幸男)

元支部長は地元の方々と協力し、自然を大切に目的のNPO法人を立ち上げたとの話しもあった。

温かい日差しの中、ふと見上げると、もう白い梅の花が蕾をほころばせ、春を告げていた。

我が愛しのチョウゲンボウ

橋本秀和(鴻巣市)

私が今の職場に転勤したのは2006年10月のこと。オフィスは6階建てビルの最上階である。

転勤して間もなく、休憩に立って廊下に出た私は、1羽のチョウゲンボウが軒下に飛び込むのを目撃した。距離にして10メートル。雌雄の識別も肉眼で充分可能だ。

それからというもの、休憩に立つたびにその軒下を覗くのが私のお決まりの行動になった。しかし相手は生き物。そう都合よく会えるものではない。それでも1週間に1度ぐらいは姿を見かけることができ、私は彼に、ビルの名にちなんで「テクノ」という名前をつけた。

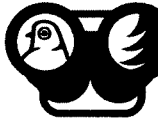
「テクノ」を目にするのは、彼が軒下に戻ってきた瞬間が多かったが、稀に飛び立つ瞬間に出くわすこともあった。「ガンダム、出撃します!」みたいな感じで実にカッコイイのだ。私はもうウキウキだった。

そんなある日、♀のチョウゲンボウが出現した。

「そうか、テクノには嫁さんがいたんだ」。私は彼女には野鳥の会の雑誌名にちなんで「トリノ」という名をつけた。

そうこうするうち、また少し経った頃、今度は窓の外を3羽のチョウゲンボウが飛び交っている光景に遭遇した。♂が2羽、♀が1羽。何だかもめてる(?)みたいだ。何とこのビルには、少なくとも3羽のチョウゲンボウがいたということか。♂の個体識別まではできないから、「テクノ」は2羽いたことになる。

そんなわけで、私は今日も彼らの姿を求めて、休憩のつど軒下を気にしている。



野鳥情報

秩父市荒川久那 ◇10月12日午後2時、クマタカ1羽（船木数樹）。

さいたま市緑区宮本氷川女体神社 ◇10月17日、アオバト1羽。11月26日、アオバト1羽、写真撮影。11月30日午前7時30分～8時30分頃、アオバト2羽、散歩の途中に出会う。外気温10℃。ほとんど動かない。尾羽の縦斑と腹の白羽が目立ち、小雨覆のブドウ色は不明。「アーアオー、アーオー」と小声で鳴く。阿呆、阿呆とも聞こえる（船木数樹）。

さいたま市緑区上野田 ◇11月8日、「クエリクエリクエリ」とアリスイらしき声するも姿見えず。11月10日、ハシボソガラス約130羽の群れ中にミヤマガラス約20羽。12月22日、カラス約200羽の群れの内約半分がミヤマガラスで残りがハシボソガラスとハシブトガラス（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇11月4日、ジョウビタキ♀、キセキレイ今季初認。11月6日、元荒川で珍しくヨシガモ♂1羽、マガモ♂1羽、タシギ4羽探餌。ハヤブサが下流へ飛翔。シジュウカラ、コゲラ、メジロの混群に誘われてウグイスも登場。11月10日、ツグミ2羽、3羽、30羽、6羽と次々に飛翔、ようやく増えてきた。11月18日、カシラダカここでは今季初認。イカルチドリ6羽、ハイタカ♀飛翔。暗い水路でツミ♀1羽。11月26日、アトリ約7羽、エナガ5羽。元荒川でヒドリガモ80羽十、久々の大群。11月28日、アトリ約40羽の群れが



ミヤマホオジロ（吉田伸一）

静かに「キョッキョ」と鳴きながら飛翔。枝をつつくコゲラの頭の赤斑がよく見えた。12月2日、「フィフィ」と孤独なウソ♀1羽。アトリ約30羽、イカルチドリ4羽。12月5日、カワウ、ダイサギ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、イソシギ、カワセミ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、アオジ、アトリ、シメ、カケスなど計31種。12月11日、カワウ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ハイタカ、イカルチドリ、イソシギ、セグロカモメ、ジョウビタキ♀3羽、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ3羽、カシラダカ3羽、アオジ、アトリ約15羽、ウソ♀1羽、カケスなど計34種。12月16日、「ジュルル」とエナガの声、「ゲーイ」とオナガの声、ハイタカが飛翔。暗い水路からブッシュに入った鳥をよく見たら、久しぶりのトラツグミ。12月25日、エナガ数羽、アトリ約10羽、オオタカ若鳥とセグロカモメの飛翔。ここでは久々のアカゲラ♀1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区野孫 ◇12月9日、久しぶりにケリ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区大谷 ◇12月12日、キジバト2羽がチョウゲンボウ♂1羽と同じ木にとまっていた。アシ原でクイナが飛んで逃げた（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区大戸 ◇12月23日、車を運転中、右から左へ横切って飛んだ小鳥。草につかまったのを確認したらホオアカだった（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区高曽根 ◇12月25日、ケリ9羽（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇12月10日、子供の森でアカゲラ♀1羽、ルリビタキ♀2羽、シジュウカラ、メジロ、コゲラ、エナガ、ヤマガラスの混群約40羽がにぎやか。オオタカがキジバトを襲うも失敗（鈴木紀雄）。

さいたま市浦和区高砂 ◇12月19日、県庁内の植込みの桜の木などにアトリ約30羽。12月22日、同所でアトリ約70羽（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜東埼玉病院 ◇11月4日、アカハラ♀、今季初認。11月7日、アカハラ2、

3羽。警戒心強い。11月26日、エナガ4羽、シロハラ、アカハラ、ツグミなど。12月16日、キクイタダキ2羽、アカハラ、シロハラ、カケスなど。12月24日、キクイタダキ5羽、ルリビタキ♀1羽、アトリ飛翔、アカハラ、シメ、カケスなど（鈴木紀雄）。

蓮田市笹山 ◇11月7日、電線のチョウゲンボウの周りにカワラヒワの群れが恐れずにいた。チョウゲンボウは満腹？（鈴木紀雄）。

蓮田市高虫 ◇12月15日、オオタカ成鳥♂1羽、屋敷林の枯杉の枝にとまる。青灰色の上面と白さの目立つ下面が美しかった（鈴木紀雄）。

菖蒲町小林 ◇11月12日、ニューナイスズメ約200羽の群れ。12月15日、ニューナイスズメ3群で約100羽。電線にとまったり、フィールドに降りたり（鈴木紀雄）。

菖蒲町町役場周辺 ◇12月13日、ミヤマガラス350羽土、採餌後高く舞い上がって東西に2分した。コクマルガラス淡色型1羽が混じっていた。12月27日、ミヤマガラス246羽採餌。コクマルガラスはいなかった。コハクチョウ成鳥1羽、亜成鳥1羽が日向ぼっこ。給餌をやめたので分散したか？ その他、ダイサギ、コサギ、アオサギ、コガモ、オオバンなど（長嶋宏之）。

鴻巣市屈巢 ◇11月12日、ニューナイスズメ約50羽（鈴木紀雄）。

鴻巣市関新田 ◇11月12日、ニューナイスズメ約100羽（鈴木紀雄）。

川口市安行領在家 ◇11月17日、芝川右岸（川口短期大学付近）のアシ原でゴイサギ17羽（うち幼鳥14羽）、コサギ4羽。冬季の噂か？ 東京湾から遡上したボラの幼魚が200匹～300匹で群泳しているので食料は豊富（船木数樹）。

渡良瀬遊水地 ◇11月23日、ハイイロチュウヒ♂2羽、チュウヒなど。12月6日、ハイイロチュウヒ♂7羽、チュウヒ約10羽、コチョウゲンボウなど（鈴木紀雄）。

熊谷市妻沼利根川河川敷 ◇12月11日午前8時10分、渡船場のアシ原でハイイロチュウヒの♀1羽を見ました。上尾筒の白とV

字形の滑翔で確認できました（寺山聖二）。

伊奈町新幹線南側の田んぼ 北緯35度59分33秒、東経139度38分30秒 ◇12月13日、ミヤマガラス50羽土がハシボソガラスとハシブトガラス各5羽と群れて田んぼで採餌（長嶋宏之）。

伊奈町小室 ◇12月15日、フィールドに群れたり、柿の木にたかっているミヤマガラス約200羽の群れ中にコクマルガラス淡色型3羽、暗色型5羽（鈴木紀雄）。

白岡町元荒川八幡橋下流 ◇12月13日、ユリカモメ2羽、コサギ3羽、チョウゲンボウ1羽、ハシビロガモ6羽、オカヨシガモ2羽。その他コガモ、カルガモ多数。12月27日、ユリカモメ4羽、セグロカモメ2羽、カルガモ100羽十、コガモ70羽十、オカヨシガモ2羽、イカルチドリ2羽。ハシブトガラス30羽土が死んだ大きな魚を食べていた（長嶋宏之）。

坂戸市入西 ◇12月13日午前11時30分頃、こはるが池近くでハヤブサが飛んできて、高压鉄塔からもう1羽が飛び立ち、2羽が合流して南の方へ飛び去った（増尾隆）。

寄居町小園 ◇12月14日午後3時30分頃、県立川の博物館周辺のハンノキ、ケヤキ、クスギの川畔林でアオゲラ♂1羽、コゲラ数羽、カケス約8羽（船木数樹）。

滑川町武蔵丘陵森林公園 ◇12月15日、山田大沼でミコアイサ♀2羽、ここでは珍しいオナガガモ♂1羽。マガモ、コガモ、カワウ多数（長嶋宏之）。

桶川市若宮1丁目 ◇12月15日午後2時20分、桶川駅西口公園南東側のモミの木にて、胸が茶色のアトリの群れ30羽以上が地面に降りて採餌したり、上空を群れをなして飛翔していた（立岩恒久）。

久喜市江面 ◇12月16日、東北縦貫道久喜IC周辺でミヤマガラス約300羽の群れ中にコクマルガラス淡色型7羽、暗色型約10羽（鈴木紀雄）。

表紙の写真

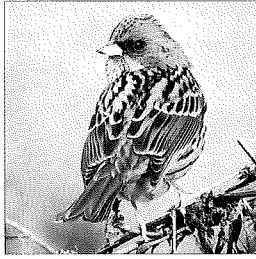
スズメ目レンジャク科レンジャク属

ヒレンジャク

蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



アオジ(編集部)

3月は鉄道・バスの時刻表変更があります。本案内は執筆当時の時刻表に基づいていますので、変更があるかもしれません。ご注意をお願いします。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月1日(日)

集合：午前8時40分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。

担当：玉井、吉安、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、榎本(建)、青木、吉安

見どころ：3月にもなると、アシ原の鳥たちは旅立ちの栄養補給に夢中なのか警戒心もゆるみがち。道端で餌を探そうになります。そんなアオジやホオジロなどをじっくり観察しましょう。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3月1日(日)

集合：午前9時30分、寄居駅南口駅前広場。

交通：秋父鉄道熊谷8:51発、または東武東上線川越8:27発にて、小川町乗り継ぎで寄居下車。

担当：小池(一)、喜多、井上、後藤、大澤、堀口、鷯飼、岡田

見どころ：ホトケノザ、ヒメオドリコソウなどの山野草、ウメ、サクラなどの花木、シメ、ツグミ、シジュウカラ、カワセミなどなど。荒川周辺をゆっくり歩きなが

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50円、一般 100円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

ら早春の自然を楽しみましょう。

ご注意：足元の悪い河原を歩きます。足擦えはしっかりと。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：3月7日(土)

集合：午前9時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:21→久喜8:34→花崎8:41着、駅から徒歩約10分。またはJR宇都宮線大宮7:57→久喜8:23着で東武伊勢崎線に乗り換え。

担当：青木、中里、宮下、四分一、栗原、内田、植平、長谷川、小林(正)

共催：加須はなさき公園管理事務所

見どころ：陽も明るく芽吹き始めた公園とその周辺を散策しながら、北国への長旅の準備を整えた冬鳥たちを探しましょう。トイレも整った安心コースです。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月8日(日)

集合：午前8時15分 JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園駐車場。

担当：工藤、兼元、浅見、松村、赤堀、金子、船木、新井(勇)

見どころ：見沼たんぼに渡る風も少しずつ暖かさを増してきました。旅立ちを前に冬鳥たちは落ちつかない様子。公園の池では未だペアリングのできないでいる内気

なカモたちを応援してあげましょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月8日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：大澤、森本、中里、倉崎、高橋（ふ）、後藤、藤田（裕）、栗原、飛田、新井（巖）、千島、鶉飼

見どころ：鳥たちが春を告げにやって来るこの季節、今年はどうな鳥に会えるでしょうか。足元には春の草花が、上空にはノスリや、オオタカが舞っていることでしょう。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月14日（土）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越8:10→坂戸で越生線乗り換え8:39 発。または寄居7:38→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR埼京線大宮7:34→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、青山、久保田、志村、杉原、高草木、高橋（優）、林、藤掛、藤澤、増尾、持丸、山田（義）

見どころ：冬鳥もまだ残って私たちが待っています。高麗川沿いを春の息吹を感じながら歩きましょう。昨年はミサゴ、オオタカ、ノスリなどが飛んでくれました。さて今年はどうかな。

神奈川県・城ヶ島探鳥会（要予約）

期日：3月14日（土）

定員に達したので締めきりました。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：見沼の春がやってくる。季節が移り変わる月は、鳥も花も景色も日々、週ごとに変わっていく。そんな変化を楽しむにお出かけください。

長瀨町・宝登山探鳥会

期日：3月20日（金・祝）

集合：午前9時20分、秩父鉄道長瀨駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:18 発、寄居8:48 に乗車。

解散：昼頃、宝登山山頂付近。

担当：小池（一）、喜多、青山、佐久間、大澤、堀口、鶉飼、岡田

見どころ：春を感じる季節です。植物、蝶なども観察しながら山頂まで歩きましょう。山頂では梅の花が見頃です。寒暖の差がありますので上着と温かい飲み物はお忘れなく。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月21日（土）午後3時～4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:44 発、所沢8:39 発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、石光、山田（義）、山口、星、水谷

見どころ：おだやかな春の陽光のもと、稲荷山公園の傍にあるカタクリの自生地を通るコースを歩きます。冬鳥、夏鳥と春の草花の両方を楽しみましょう。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月22日（日）

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR 高崎線吹上駅北口から、朝日バス
行田車庫(佐間経由)行き 8:50 発で、「産
業道路」下車、徒歩約 15 分。

担当：内藤、岡安、立岩、栗原、高橋(ふ)、長
谷川、茂木

見どころ：さきたまも春の陽光がいっぱい。
桜のつぼみもふくらみかけてきました。
冬鳥と夏鳥を共に見ながら古代へ思いを
はせ、古墳群を回ってみませんか。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月22日(日)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車
場付近。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、1 番バス
乗り場から 8:50 発エローラ行きで「松伏
高校前」下車。

担当：田邊、橋口、植平、大塚、吉岡(明)、
榎本(建)、野村(弘)、野村(修)、森下、
進士

共催：松伏中央公民館

見どころ：地域の野鳥も減少しているなかで、
シラコバトが見られる機会も厳しい状況
です。春を謳歌しているヒバリのさえず
りを聞きながら歩きましょう。まだ居残
っている冬鳥や、南からのトップを切る
ツバメを見られるのもこの頃です。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月28日(土)

集合：午前9時20分、東武日光駅前。集合後、
バスで「総合会館前」まで移動。

交通：東武伊勢崎線春日部 7:44 発「快速」日
光行き、東武日光 9:15 着。または、栗橋
7:55→板倉東洋大前で 8:10 発「快速」日
光行きに乗り換え。

解散：午後2時ごろ、日光東照宮付近にて

担当：玉井、田中、中里、福井、植平

見どころ：このコースのお目当てはかわいい
ミソサザイです。その姿をみんなで見た
いものですね。クマタカも毎年姿を現し
ています。鳥だけでなく杉並木や、日光
の山々も是非見てください。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：3月29日(日)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス
駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:20→春日部 7:35
→栗橋 7:55→柳生 8:05 着。または JR 宇
都宮線大宮 7:07→栗橋 7:40 着で、東武
日光線乗り換え。

解散：正午ごろ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、中
里、小林(正)、植平、山田(東)、進士

見どころ：谷中湖の干し上げ実施後も元気な
水鳥たち。アシ焼きが終わると春本番。
黒いアシ原に芽吹いた新芽や疎林の枝に
名残りの冬鳥たち。ツバメをはじめとす
る春一番の鳥たちを見つけましょう。

神川町・城峯公園周辺探鳥会(要予約)

期日：4月25日(土)～26日(日)

集合：25日午後1時、JR 高崎線本庄駅南口。
集合後バスで下久保ダムに移動。

解散：26日午後3時頃、JR 高崎線本庄駅。
費用：11,500 円の予定(1泊2食付宿泊費、
26日昼食代、保険料など)。過不足の場
合は当日精算。現地までの往復交通費は
各自負担。

定員：20名(先着順、支部会員に限ります)。

申込み：往復葉書に住所、氏名、年齢、性別、
電話番号、喫煙の有無を明記して、橋口
長和

まで。

担当：橋口、玉井、田邊

見どころ：1日目は、下久保ダム周辺を散策
しながら、オオルリやキビタキを探しま
す。2日目は、早朝4時からクロツグミ
やアカハラなどのバードコーラスを期待
します。

ご注意：神川町営「冬桜の宿・神泉」に宿泊。
宿泊は、男女別の相部屋です。個室のご
用意はできません。

参照：<http://www.vill.kamiizumi.saitama.jp/>



行事報告

9月15日(月、休) 坂戸市 高麗川

参加：35名 天気：曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ イカルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) (番外：ドバト、ガビチョウ) 2日前の下見でアオバト、イカル30羽以上がいたので探鳥開始時にそれを説明したが、参加者にちょっと期待をさせすぎた。途中の恒例のコースが草に覆われたり、ブタクサ街道があったり一部コース変更をしたが、変更コースの用水に魚や昆虫がいたり花があったりでそれなりに楽しめた。探鳥会后、送電線に猛禽が止まっておりすぐに飛び去ったが同定で意見噴出。結論はサシバの幼鳥。(山口芳邦)

9月15日(月、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア：15名

新井巖、新井勇吉、新井陽子、石井智、海老原教子、海老原美夫、大勝学、大林一枝、佐久間博文、進士悦行、鈴木敬、千野安以、中川敏子、船木数樹、山田東二 ◆ さいたま市の大久保農耕地で行った。結果は別途報告する。(石井 智)

9月20日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：7名

大坂幸男、海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、手塚正義、長谷部謙二、藤掛保司

9月21日(日) さいたま市 三室地区

参加：52名 天気：曇後雨

カワウ ゴイサギ ダイサギ アオサギ カルガモ オオタカ ハヤブサ キジ バン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ

スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 9月は渡りの季節なので、サシバ等の出現を期待したが、あいにくの曇り空。上昇気流が発生せず、サシバは出現しなかった。しかし、オオタカと久し振りのハヤブサが飛んだ。芝川の草原ではノビタキが可愛い姿を見せ、土手の下をオスのキジがゆっくり横切った。予報通りに雨になったので、短縮して博物館へ。時間があってので、鳥合わせなどゆっくりした。(楠見邦博)

9月23日(火、休) 松伏町 松伏記念公園

参加：41名 天気：晴

カワウ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ トビ チョウゲンボウ キジ バン イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) (番外：ドバト) 温暖化の影響か、ヒガンバナの開花も稲刈りも遅れ気味の様子に、下見のときからのいやな予感。それが的中した。公園の中はスポーツマンと釣り人で一杯。鳥は数えるほど。田んぼに出て、お目当てのサギの群れがさっぱりで、コサギがちらほら居るばかり。それでも暑さに耐えてねばったおかげで、5~6羽のノビタキ、チョウゲンボウがじっくりと見られたので、元気を取り戻した。サギ類4種を含む出現鳥数25種は、この時期としても少し淋しく、また、地元の公民館からの参加者が居なかったことと併せて、次回に宿題の残る探鳥会だった。(田邊八州雄)

9月28日(日) 狭山市 入間川

参加：40名 天気：曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) そろそろ冬鳥の見られる季節。最初はコガモかカケス、それともアオジ? 残念ながら今回は冬鳥なし。しかし、旅の途中だろうか、数名がクサシギを見ることができた。クサシギの人気はあまり高くないが、シックで美しい鳥なので出会ったときにはよく見て欲し

い。入間川初記録。

(長谷部謙二)

9月28日(日) タカの渡り調査

ボランティア: 34名

相田光雄、青山紘一、新井巖、石井久美子、石井博、市川智子、鵜飼喜雄、榎本登志枝、榎本菜摘野、榎本秀和、榎本みち子、大勝学、大坂幸男、加藤栄二、倉崎哲郎、小出博、後藤康夫、小林茂喜、佐久間博文、佐藤、沢井清、沢井陽子、鈴木敬、須永祐成、関口善孝、千島康幸、中村豊己、中村弘、林久美子、平田、船木数樹、村松、茂木幸藏、矢吹英弘 ◆ 小川元気プラザ屋上、物見山、天覧山の3箇所で行われた。結果は別途報告される。(天覧山では苗字しか分からない方もいました。ご容赦ください。)

(研究部)

10月5日(日) 北本市 石戸宿

参加: 67名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ トビ ノスリ サシバ コジュケイ バン キジバト アマツバメ コゲラ ヒヨドリ モズ エゾビタキ コサメビタキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) コゲラが枯れ木に巣作り中(冬ねぐら?)。木道を歩いていると、足元からいきなりコジュケイが飛び立つ。桜堤外の駐車場、ヤナギ大木の枝先にフライングキャッチを繰り返すコサメビタキとエゾビタキを発見。全員でじっくり観察。上空には、ノスリ、アマツバメも出現。園内に戻るとヤマガラのお出まし。ポカポカ陽気に、屋外で鳥合わせ。終了とその時、参加者から「上空にサシバ!」の声。慌てて確認し、1種追加。

(浅見 徹)

10月5日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 74名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ サシバ チョウゲンボウ キジ イソシギ キジバト ツツドリ アマツバメ カワセミ コゲラ アリスイ ショウドウトツバメ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ キビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) この時季の楽しみは渡りの鳥たちに出会

えること。南へ渡る2羽のサシバ、秋空を乱舞するアマツバメ、柳の木にアリスイ、個体数が多かったノビタキなど参加者全員で見ることができ、秋らしい一日を満喫できた。

(手塚正義)

10月12日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 55名 天気: 晴

カワウ アオサギ トビ サシバ キジ キジバト ヒメアマツバメ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ エゾビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 秋のさわやかな気候だった。しかし、気候とは逆に、野鳥の姿が見えない。終着地の「野鳥の森」でようやくカラ類の混群が姿を見せる。また、エゾビタキも樹上で羽を休めるのが観察できた。河原では、まだツバメやイワツバメの群れが盛んに飛び回り、採餌していた。

(後藤康夫)

10月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

新井浩、池田泰石、海老原教子、大坂幸男、倉林宗太郎、志村佐治、千野安以、増尾隆

10月19日(日) さいたま市 三室地区

参加: 73名 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ コサギ カルガモ コガモ オオタカ キジ クイナ バン イソシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) (番外: ドバト) 夏鳥が去り冬鳥がまだこない時季でもあり、天気とは裏腹に、なかなか鳥がでない。通常ならモズの高鳴きがうるさいくらいなのに、タイミングが悪いせいか姿が見られない。見沼田んぼに咲き乱れるコスモスを堪能しながら歩いていると、ようやくカワセミやキセキレイが出現し、クイナも見ることができて一安心。しかし鳥合わせが終わってみると、ムクドリが参考記録になり唖然とした。探鳥会終了後に電線に群れをなしているムクドリを発見。探鳥会の間に出て欲しかった。

(青木正俊)



●第 16 回野鳥密猟問題シンポジウム

2008 年 11 月 8 日(土)～9 日(日)の 2 日間宮城県松島で開催され、当支部からは福井恒人(県鳥獣保護員)が参加しました。

テーマは「野鳥を捕らないで、飼わないで」。基調講演「野鳥の愛玩飼育の全廃を」(遠藤公男氏)に続き、宮城県での状況報告、環境省の愛玩飼養制度見直しの動き、輸入商組合が発行する輸入証明書についてなど、活発な議論が交わされました。

●支部後援の環境講演会

前号本欄でご案内した当支部が後援、楠見邦博が実行委員として参加したさいたま市緑区環境講演会「見沼地域の自然環境と文化的景観」が、2月1日(日)さいたま市緑区プラザイーストで開催されました。

定員 250 名満席の聴衆に対し、青木義脩講師は、大切なことは持続可能であること、人間生活が自然環境にいかにか調和出来るかであり、見沼田んぼがまさに実践する場所であると講演しました。

●会員の普及活動

- 1, 1月25日(日)比企郡小川町の県立小川げんきプラザと金勝山周辺で開催された同プラザ主催野鳥観察会で、新井巖・大澤祐・中村豊己・青山紘一・千島康幸・鶴飼喜雄の6名が指導しました。70名の親子が参加、ルリビタキ、エナガなど21種を観察。
- 2, 1月29日(木)さいたま市北区公民館と大宮公園で開催された同公民館主催バードウォッチングで、田中幸男・中島康夫・赤坂忠一の3名が指導しました。参加者 16 名に公民館担当者2名が同行して、21種を観察。
- 3, さいたま市報緑区版『緑区野鳥散歩』は、

楠見邦博が文章、海老原美夫が写真を担当して昨年4月号から掲載され、本年3月号で1年間12回継続、予定通り終了しました。

●新制度対応に関するブログ

本部のホームページに開設されました。

<http://www.wbsj.org/blog/koeki/>

●会員数は

2月2日現在 2,183 人です。

活動と予定

- 1月17日(土) 2月号校正(海老原美夫・喜多峻次・志村佐治・藤掛保司・山田義郎)。
- 1月18日(日) 役員会(司会:持丸順彰、各部の報告・『野鳥』誌支部行事案内連絡担当内藤から山口に変更・新年度事業新役員候補・その他)。
- 1月20日(火) 平成20年度第3回見沼たんぼ保全等事業部会に出席(藤掛)。
- 1月26日(月) 「支部報だけの会員」に向けて2月号を発送(倉林宗太郎)。

●事務局の予定

- 3月7日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 3月14日(土) 4月号校正(午後4時から)。
- 3月15日(日) 役員会(午後4時から)。
- 3月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

次号300号を機にカラーページ増を考えていたが、このところ会員数の減少が急。ちょっと無理かな。

読売新聞埼玉県版で他の3団体と交代で執筆している『動物日記』。2004年2月から始まって今年2月で私の担当は51回目。意外と長く続いている。

支部の名称変更について内閣府側から少し問題がある程度整理されてから、会員みなさんに報告します。(海)

しらこぼと 2009年3月号(第299号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社